TEC COMM.

TEC COMMUNICATIONS

February 2007

VOL.11

Investor Relations

若月常務執行役員が語る“海外営業本部の現状と今後の戦略”

過去最高の受注高を契機として、「Global Toyo」でビジョン実現を目指す

In-depth

Global Toyo 顧客価値共創サービスを提供する「Global Toyo」

Project Moving-On

PTTポリエチレン社向け大型エチレンコンプレックス

TOPICS

TEC独自のDME技術

――本格クリーンエネルギー実現のための100万トン級プラント

Cover Design ― 表紙写真：折り紙（おりがみ）

平面の紙を折って立体を創造し、その出来栄えを楽しむ遊び。平安時代に貴族が始めて、江戸時代に庶民の間で広まった。この複雑なくすだまは、正方形の紙で花びらを一枚ずつ作り、それらを組み合わせて球形が作られている。

東洋エンジニアリング株式会社（TEC）

過去最高の受注高を契機として、「Global Toyo」でビジョン実現を目指す

～TECの海外営業戦略

TECが推進している中期経営計画「顧客価値共創サービスを提供するGlobal Toyo」の目標達成に向けて、最前線で活動している海外営業本部。2007年3月期には連結最高額の受注を見込んでおり、グローバル市場におけるTECの競争力強化と持続的成長に大きな役割を果たしています。今回は躍進を続ける海外営業本部の現状と今後の戦略につき、若月常務執行役員・海外営業本部長にインタビューしました。

“海外営業本部の現状と今後の戦略”

東洋エンジニアリング株式会社
常務執行役員・海外営業本部長
若月　健

今期2,000億円超の受注見込み

Q 始めに2007年3月期の海外営業本部の受注状況についてご説明下さい。

受注は非常に順調です。今期、海外営業本部は当初の計画を上回る2,000億円の受注額を見込んでいます。最近はコスト･レインバース（実費償還）型の契約も増えており、これを従来のターンキーランプサム（一括請負）型の契約に引き直すと、実質5,000億円規模の仕事に携わっていると言えます。

グループ全体の連結受注残高も昨年9月末時点で5,000億円を超えており、これは連結決算を開始して以来の最高額です。

Q 好調な受注の要因については、どのようにお考えでしょうか。

原油価格が高騰する中で、重質油を含むエネルギー関連、特にガスベースのプロジェクトが増加しています。また中東、BRICsマーケットは依然として好調ですし、エチレンなど石油化学を中心とする素材関連の投資も活発化しています。

このように市場環境はきわめて良好ですが、今期の受注が好調なのはこの環境に加えて、当社がこれまでに築き上げてきた実績やノウハウ、技術力のほかに、「TECブランド」としての良質なサービスや安全を第一とした顧客重視のプロジェクト遂行が、お客様から高い評価をいただいていることが大きいと考えています。

お客様のコントラクター選定の方法が変化してきたことも、当社にとっては追い風になっています。従来は入札で最も金額が安いところに発注される傾向が強かったのですが、最近は過去の実績に基づく信頼関係をベースにコントラクターを選ぶケースが増えてきました。当社も指名を受けて、参加させていただくプロジェクトが出てきており、お客様と当社の関係もより成熟したものに変化してきたと感じています。

地域・商品別の受注状況

Q 今期の受注における商品や地域の特徴についてお聞かせ下さい。

マーケットについては偏ることなく幅広い受注ができています。海外営業本部では地域ごとに三つの組織（アジア／CIS･中東／米州）に分けていますが、これらすべての部署が当初の目標を達成し、非常にバランスの取れた受注状況になっています。

強調すべきプロジェクトとしては、シェル･グループの三つの投資案件があげられます。ロシア･サハリンのLNGプラント、シンガポールのエチレンプラント、カタールシェルGTL社向けリキッドプロセシングユニットで、同時期に同一グループの3件のプロジェクトが進行するのは当社としても今回が初めての経験です。ブラジル石油公社（ペトロブラス）からもここ10年間くらい毎年コンスタントにプロジェクトに参画させていただいています。中国に関しては二種類の仕事があり、一つはACES21®（尿素製造技術）やDME（ジメチルエーテル）などの当社独自技術の展開、もう一つは欧米企業の中国投資に対するサポートで、当社の中国における実績やノウハウが高く評価されています。中東ではカタール、サウジアラビアでプロジェクトが進行しています。更に、これまでおつき合いさせていただいているお客様から、新たに計画されている案件へのご相談もいただいています。

2006年度主要受注案件

客先	Qatar Shell GTL Limited
建設地	カタール
プラント	GTL リキッドプロセシングユニット 140,000 BPD
契約	ターンキーランプサム
役務	EPC
パートナー	Hyundai Engineering & Construction Co., Ltd.

客先	Indian Oil Corporation Limited
建設地	インド
プラント	エチレン 800,000MTPA
契約	ターンキーランプサム
役務	EPC
パートナー	Larsen & Toubro Limited

客先	PTT Polyethylene Company Ltd.
建設地	タイ
プラント	エチレン 1,000,000MTPA
契約	ターンキーランプサム
役務	EPC

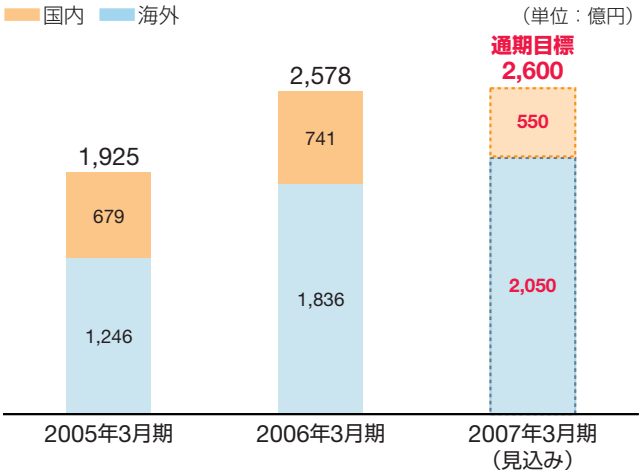
客先	Shell Eastern Petroleum (Pte) Ltd.
建設地	シンガポール
プラント	エチレン 800,000MTPA
契約	コスト・レインバース
役務	EPCm
パートナー	ABB Lummus Global B.V.

客先	Dow Corning (Zhangjiagang) Co., Ltd.
建設地	中国
プラント	クロロシランプラント
契約	コスト・レインバース
役務	EPsCm
パートナー	Aker Kvaerner

オーナー	Methanol Holdings (Trinidad) Limited
客先	MAN Ferrostaal AG
建設地	トリニダード・トバゴ
プラント	尿素プラント 2,100MTPD
契約	ランプサム
役務	ライセンス供与・EPs

（注）EPC： Engineering・Procurement・Construction
EPCm： Engineering・Procurement・Construction management
EPsCm： Engineering・Procurement service・Construction management
EPs： Engineering・Procurement service

国内・海外受注高（連結）



Q 契約形態の変化についてご説明下さい。

先ほどもお話したように、従来はターンキーランプサム型が大半を占めていました。しかし、機器資材の高騰や長納期化といった問題が世界規模で起きているほか、エンジニアリングだけでなくコンストラクションのマンパワーも足りないという状況が生まれています。

こうした中、お客様もそれらのリスク要因に対して理解を示してくださるようになり、お互いにコストに係わる不安定要素をシェアする方向に移行してきました。そのため1,000億円を超える大型プロジェクトについては、ジョイントベンチャーで対応したりコスト・レインバースというサービス契約形態を取るようになってきたわけです。

当社が現在進めている中期経営計画では、海外受注の粗利益額の比率を、ターンキーランプサム型が3分の2、コスト・レインバース型が3分の1と設定していますが、今期の受注内容もそれに近い比率となっています。

増大する案件への対応策

Q 増大する案件に対して、マンパワーの不安はないのでしょうか。

当社に限らず、世界的に見てプロジェクトの数が、エンジニアリング会社のキャパシティ以上に存在している状況です。契約通りにお客様の満足のいくプラントを作ることが第一の使命なので、会社のキャパシティを超えて無理に受注することはできません。そのため月に1回程度関係各部が集まり、Toyoグループ全体を含めたマンパワーの現状を確認しながら、今後の受注案件について検討する調整会議を開いています。

一方、海外拠点の整備と要員の増強にも取り組んでいます。現在、Toyo-Japanには約1,600人の従業員がおりま

す。海外ではToyo-Indiaに1,300人、Toyo-Thaiに600人、Toyo-Koreaに200人、他の海外拠点も含めますとToyoグループ全体で5,300人ほどの従業員がいます。これを2009年3月末までに6,000人体制に拡大する計画です。

Q 海外拠点のプロフィットセンター化を推進中と伺っています。

従来、海外拠点はToyo-Japanのローコストセンターという位置づけでしたが、「Global Toyo」を掲げた中期経営計画において、プロフィットセンターへの早期移行を図ることになりました。それは、各拠点が一人立ちし、経験を持ったコントラクターとして認められ、Toyo-Japanと同じ立場で仕事をしていくということを意味します。各拠点をプロフィットセンター化することで、拠点独自の展開が図れて、仕事の守備範囲も拡大します。

一方、われわれは各拠点が設計から調達、建設というプロジェクトの全体を一貫して請けられるように体制を整備していきます。当社にとっては経験豊富な分野である肥料や石油化学などでは、すでに拠点独自でプロジェクトを手掛けており、プロフィットセンターへの移行は着々と進んでいます。現地の会社として何が足りて何が足りないか、足りないものをToyo-Japanがどうやって補っていくか、そしていかに効率的かつ経済的にプラント建設をやっていくかということが今後の課題になってくると思います。

Q 今後の重点商品分野についてお聞かせ下さい。

ハイドロカーボンのマーケットは、今後受注競争が再び厳しくなってくることも予想されます。従って当社としては、従来分野での競争力を高める努力とともに、長年培ってきたプロジェクトマネジメント能力とエンジニアリング能力を発揮しながら、将来を見据えた事業領域の拡大を図らなければなりません。

今後の重点分野と位置づけているのは、GTLやDMEなどの石油代替エネルギー開発、バイオ、FPSO、重質油改質、オイルサンド、大規模ガス田開発などのエネルギー分野です。こうした分野について当社の技術力と地域ノウハウを活かして積極的に案件を開拓していく考えです。

また、特に注力していこうと考えているのが、水、発電、交通といった、社会インフラ型分野です。たとえば水については、石油やガスなどのハイドロカーボンを処理する際に出る大量の水を扱う当社の要素技術を活用することができます。交通に関しては、車輌などのハード系メーカーの他にシステム全体をまとめるインテグレーターというプレーヤーが必要ですが、当社にそうした役割を求める声がマーケットから寄せられています。インフラ整備型案件は今後増大する傾向にありますから、当社もその中で重要な役割を果たしていきたいと考えています。

持続的成長へ向けての事業戦略

Q これから特に取り組みを強化される地域はどこでしょうか。

現在、世界的にエネルギー関連の需要が旺盛ですので、油やガスの生産地に近いところと消費地に近いところの二極にビジネスの可能性があると考えています。産油･産ガス地域としては、現在の原油価格が続く限

り、中東の資源国でのプロジェクトが相当出てくるでしょう。更に原油が高騰すれば、それに代わるガスベースのプロジェクト、たとえばGTLのような代替エネルギープロジェクトが中東を中心に展開していくと思います。消費地立地としては中国とインドを中心に営業を展開しています。

また、経済的な発展が続いているブラジルやロシア、南米ではベネズエラ、北米ではオイルサンドを中心とするカナダに注目しています。今期、中東事務所をカタール・ドーハに、Toyo-Canadaをカナダ・カルガリーに開設し、来期から営業活動を本格化する考えです。

Q 最後に、今後の展望と抱負をお聞かせ下さい。

われわれ海外営業本部には、お客様のニーズを具体的な仕事とともに社内に向けて発信するという役割があります。マーケットが今何を求めているのか、それにどう当社が応えていけるのかということについて常に感度を良くしておき、お客様に満足いただけるサービスを提供したいと考えています。

たとえば、先ほど申し上げた社会インフラ型分野に加えて、資源開発の分野では、油田・ガス田開発を探査の段階からお客様とともに検討を開始し、投資対効果の高い事業開発を支援することで、上流側への事業領域拡大を図っています。

今後も引き続き「Global Toyo」体制をベースに、市場と顧客に密着しながら、お客様との信頼関係をより強固なものにし、中期経営計画の目標達成に向けて新たな受注の獲得を目指していきます。

PROFILE

常務執行役員・海外営業本部長

若月　健

Senior Executive Officer **Ken Wakazuki**

1949年、東京生まれ。1972年、慶應義塾大学商学部を卒業し、東洋エンジニアリング（株）に入社。入社から3年間、調達本部に所属。当時の社内には成長企業だけが持つ独特な活気がみなぎっていたと語る。「社員たちはそれぞれの持ち場で、多少背伸びしつつも、常に目標へと向かっていたような気がします。困難な仕事でも皆が知恵を出しあっていました。非常に熱い心を持った集団でした」。その“伝統”は現在も社内に息づいているという。

1975年には海外営業第一本部に配属。以来一貫して海外営業に携わってきた。営業の基本は「協調と信頼」。お客様に「TECならしっかりやってくれる」と思っていただくことが何より重要と語る。2002年6月に執行役員・海外営業本部副本部長を経て2004年5月より現職。

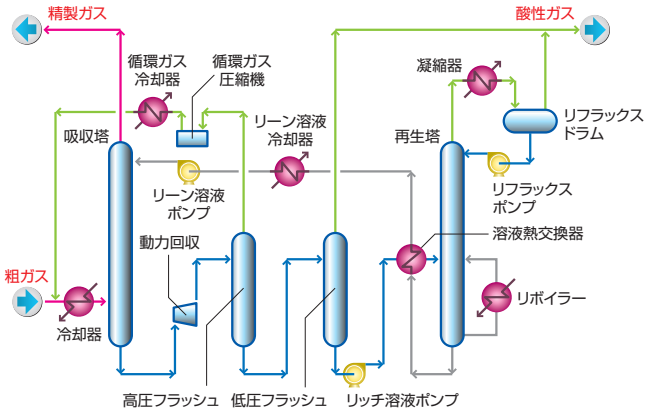
好きな言葉は、母校の創設者である福沢諭吉が自著の中で述べた「痩せ我慢」という言葉。「福沢先生は武士道と西洋文明が混在する時代の中で哲学を開かれた方です。一身にして二つに生きるということを迫られたときにどうやって生きていくか。つまり改革や変化に直面したときにはきれいな言葉でごまかさずに守るべき伝統との融和を図りながら改革に取り組む姿勢を「痩せ我慢」という言葉でおっしゃっていたように思います。すごく平易ですが、私の一番好きな言葉です」。

New Technology

独BASF社とガス精製技術を共同開発

当社は、独BASF社と共同で新しいガス精製技術PuraTreat™ Aを開発し、協力してその市場開拓に取り組む契約を2006年12月に締結しました。ここ2～3年の原油･天然ガス価格の高騰を背景に、石炭ガス化や重質油利用の重要性は急速に高まっています。PuraTreat™ Aは、石炭や重質油から得られる合成ガスに含まれる有害な硫黄化合物（硫化水素、硫化カルボニル等）を高収率で除去する技術です。選択性能の高い特殊溶媒を用いることにより、既存のガス精製技術と比較してエネルギー効率に優れ、初期設備投資額も抑えられ、また環境への負荷も軽減することができます。これらの特徴を活かし、PuraTreat™ Aは、特に複合ガス化サイクル式発電設備（IGCC）や、化学プラントの合成ガス精製設備においてその優れた性能を発揮することが期待されます。

BASF-TEC PuraTreat™ A　プロセス･フロー図



当社はこれまでCO_2除去等の酸性ガス処理分野においてBASF社のaMDEA™プロセスを採用しており、両社協力体制のもと豊富なプロジェクト経験を積み重ねてきました。このたびの共同開発と市場開拓はこの関係を一層強化するものであり、注目を集めている石炭や重質油利用技術として営業展開していきます。

（注）“PuraTreat™ A” および “aMDEA™” はBASF社の登録商標です。

Original Technology

TECのDME技術 ～本格クリーンエネルギー実現のための100万トン級プラント

当社は2002年7月に中国四川省の大手化学企業、瀘天化（集団）有限責任公司グループ（瀘天化）から、エネルギー利用としては世界初となる年産1万トンDME（ジメチルエーテル）プラントを受注して以来、2003年に11万トン、2005年に21万トンとプラントの大型化に対応しながら、これまでに中国で4基のプラントを受注しています。DMEは、燃焼性に優れ、かつ硫黄や灰分を含まないため燃焼時に硫黄酸化物や煤塵が全く発生しないクリーンエネルギーであり、貯蔵･ハンドリングもLPGに準じた取り扱いができることから、LPG代替やディーゼル燃料代替としてニーズが高まっています。

瀘天化の11万トンDMEプラント

経済的な発展を続けている中国では、エネルギーの多くを石炭や石油に依存しているため、大気汚染が深刻化し、これを受けて中国政府は、国内の豊富な石炭を原料に利用しつつ、クリーンエネルギーであるDMEのプラント大型化を積極的に指導しています。

DMEの本格的な燃料利用には、市場開拓とともにプラント大型化のための機器のスケールアップが重要であり、当社はこれまでの実績を基に大型化技術を確立しました。このような中、瀘天化が中国内蒙古自治区で計画している世界最大の年産100万トン級の大型DMEプラント建設に関して、当社は2006年9月に技術協力する契約を締結し、大型プラントの早期実現を目指します。

（注）瀘天化（集団）有限責任公司は合併により、会社名を四川化工控股（集団）公司に変更しました。

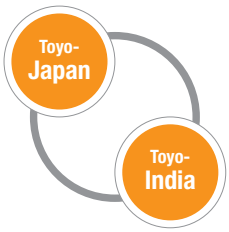
顧客価値共創サービスを提供する「Global Toyo」

「Global Toyo」とは、Toyoの名前の下で、市場・顧客に密着しながら、Toyo-Japanと世界各地のグループ会社が相互に連携し、かつ自立的に活動する体制を指します。

「Global Toyo」体制における確実なプロジェクト遂行のために先ず重要となるのが『受注計画策定時における要員のシミュレーション』です。これによって各案件の受注時には、グローバルリソースから動員体制が確立され、更に状況に応じて機動的にリソース配分を変更しながら多数のプロジェクトを遂行していきます。

「Global Toyo」Case-1：

インド国営石油会社（IOCL）向け 年産80万トンエチレンプラント



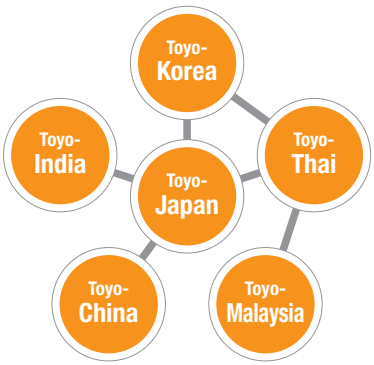
Toyo-Japanが全体の施工管理と海外での設計および機器資材の供給を、Toyo-Indiaがインド国内での設計、機器資材供給および建設工事を担当します。

「Global Toyo」Case-2：

タイPTTポリエチレン社（PTTPE）向け エチレンコンプレックス

コンプレックスの中心設備であるエチレンプラントは、Toyo-Japanが全体の施工管理と海外での設計および機器資材の供給を、Toyo-Thaiがタイ国内での機器資材供給、建設工事および一部の詳細設計を、更にToyo-Indiaが詳細設計を、Toyo-Chinaが調達業務の一部を担当します。またLLDPEプラントは、Toyo-Japan、Toyo-Thai以外にToyo-KoreaがFEED※ワークおよび一部主要機器調達を担当し、Toyo-Malaysiaの技術者がToyo-Thaiに派遣されます。

※FEED: Front-End Engineering Design
（注）P.9に関連記事掲載

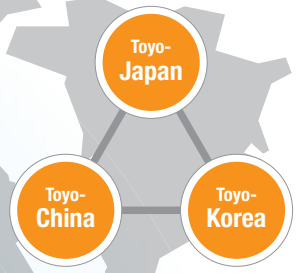


Global Toyo

「Global Toyo」Case-3：

中国Dow Corning社向け クロロシランプラント

Toyo-Japanが全体の施工管理と海外での設計および機器資材供給マネジメントを、Toyo-Chinaが中国国内での設計、機器資材供給･建設工事マネジメントを、更にToyo-Koreaが詳細設計の一部を担当します。



ⓐ ⓑ ⓒ ⓓ ⓔ
ⓕ ⓖ ⓗ ⓘ ⓙ

ⓐ **Toyo-Japan**
Toyo Engineering Corporation
日本／千葉

ⓑ **Toyo-Thai**
Toyo-Thai Corporation Ltd.
タイ／バンコク

ⓒ **Toyo-India**
Toyo Engineering India Limited
インド／ムンバイ

ⓓ **Toyo-Europe**
Toyo Engineering Europe S.A.
ルクセンブルグ

ⓔ **Toyo-U.S.A.**
Toyo U.S.A., Inc.
アメリカ／ヒューストン

ⓕ **Toyo-Korea**
Toyo Engineering Korea Limited
韓国／ソウル

ⓖ **Toyo-China**
Toyo Engineering Corporation, China
中国／上海

ⓗ **Toyo-Malaysia**
Toyo Engineering & Construction Sdn. Bhd.
マレーシア／クアラルンプール

ⓘ **Toyo-Brazil**
Toyo do Brasil–Consultoria E Construcoes Industriais Ltda.
ブラジル／リオデジャネイロ

ⓙ **Toyo-Canada**
Toyo Canada Corporation
カナダ／カルガリー

New Order　Large Ethylene Complex

タイPTTポリエチレン社から大型エチレンコンプレックスの全主要設備を「Global Toyo」ベースで受注

当社とToyo-Thaiは共同で、タイ石油公社PTTのグループ会社であるPTTポリエチレン社（PTTPE）がラヨン県・マプタプットに新設する同国最大規模となるエチレン製造設備と直鎖状低密度ポリエチレン（LLDPE）製造設備を相次いで受注しました（2009年10月末完成予定）。

これらのプロジェクト実行には、当社とToyo-Thaiの他に、エチレンプラント（年産100万トン）ではToyo-Indiaが詳細設計に、Toyo-Chinaが中国品調達に参加します。一方、LLDPEプラント（年産40万トン）ではToyo-KoreaがFEEDワークおよび一部主要機器の調達に参加し、Toyo-Malaysiaの技術者が詳細設計支援のためにToyo-Thaiに派遣されます。この「Global Toyo」ベースのプロジェクト運営方法により、品質・安全・納期管理の徹底などグループ各社間で密接な連携をとり、客先の期待を上回るパフォーマンスを挙げるべく、これらのプロジェクトを進めていきます。

またToyo-Thaiは、その他の製造設備も併せて受注しており、エチレンコンプレックスの全主要設備の建設に関与することになります。これは客先が、タイのエンジニアリング会社としてのToyo-Thaiを評価し、また更なる飛躍を期待している証左といえるでしょう。

Project Completion　Oil Refinery Modernization

ロシア・ヤロスラブリ製油所近代化プロジェクトを完了

2006年5月、モスクワの北東280キロにあるヤロスラブリ製油所近代化プロジェクトを完了しました。これはロシアンメジャーの1つ、スラブネフテ社の中核製油所であり、国際協力銀行の輸出金融が適用された日露両国経済協力の主要プロジェクトです。プロジェクトの主契約者はドイツ・ティッセン社ならびに三井物産（株）で、当社はプロジェクトの中心設備である重質油熱分解設備（年産150万トン）、水素化分解設備（年産214万トン）および接触改質設備（年産60万トン）の設計・調達業務を担当しました。本プロジェクトの完了により、同製油所は、ロシアでの急速なモータリゼーションに対応する競争力のある製油設備をいち早く整備したこととなります。

当社は旧ソ連邦時代に数多くのプラントを建設した実績がありますが、新生ロシアとなってまた1つ大きな実績を加えたこととなります。同国では、現在サハリンのLNGやカザンの高機能樹脂などの大型プロジェクトも継続実施中です。経済成長の著しいロシアでは今後も多くの大型プロジェクトが見込まれ、新規受注につながる大きな実績となりました。

Project Completion　New Chemical Plant

星光PMC（株）の中国張家港薬剤新工場を完工

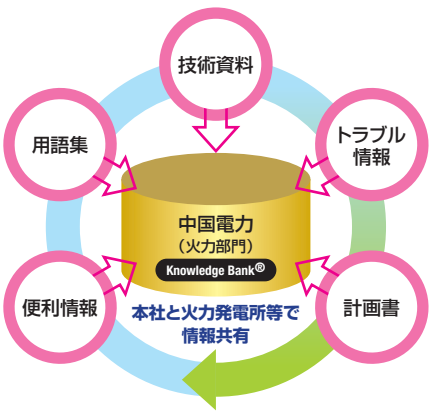
当社は、星光PMC（株）の中国現地法人である星光精細化工（張家港）有限公司向けの製紙用薬剤新工場を完工しました。建設地江蘇省張家港市において当社は近年3件のプラントを受注しており、現地法規を熟知し、現地パートナーとの協力関係を活かして円滑にプロジェクトを遂行することができました。

本プロジェクト開始当初の計画立案段階では積極的にコストダウンアイデアを提案し、その検討を行なう中で、お客様との信頼関係を築きながら協調してプロジェクトを作り上げました。パートナーである中国設計院は、同地で先行したプロジェクトにおいて当社のエンジニアリング手法を経験しているため、効率的に設計を進めることができました。また中国での調達業務はToyo-Chinaが長年にわたるノウハウを活用して、高品質の機器を調達し納期管理も万全に行なうことができました。

1972年の国交回復より120件を超す中国国内の実績に加え、当社はこれまでに14の工業開発区と提携して現地の状況をリアルタイムに把握することにより、欧米や日本企業のお客様が安心して中国に進出いただけるように支援していきます。

Project Completion　Knowledge Management System

中国電力（株）火力部門にてKnowledge Bank®を本格運用開始



中国電力（株）電源事業本部（火力部門）は、昨年より業務知識習得、業務効率化･正確化、トラブルの未然防止、復旧の適正迅速化を目指して、当社オリジナルのナレッジシステムKnowledge Bank®を導入し、運用を開始しました。

その背景には、2007年問題や設備投資減少に伴う技術力の低下を抑えて、市場競争力の強化を図ることが急務だったことが挙げられます。

Knowledge Bank®導入にあたり、先ず散在している資料を体系的に整理してシステムに登録していきます。更に、結論を導き出すための裏付け資料をリンクさせておくことにより、登録した本人以外でも「なぜそのように判断したか」を確実にたどることができ、ノウハウの伝承が可能となります。また、登録資料を確実に検索するために、ナレッジを共有するグループ毎の専門用語で構成された「キーワード一画面」を構築することがKnowledge Bank®の特徴です。

運用に際して客先は本社に専任事務局を設置し、9つの発電所におけるシステム活用を的確に支援して火力部門全体の更なる技術力向上を図っています。

海外拠点／駐在員事務所でのビジネス動向

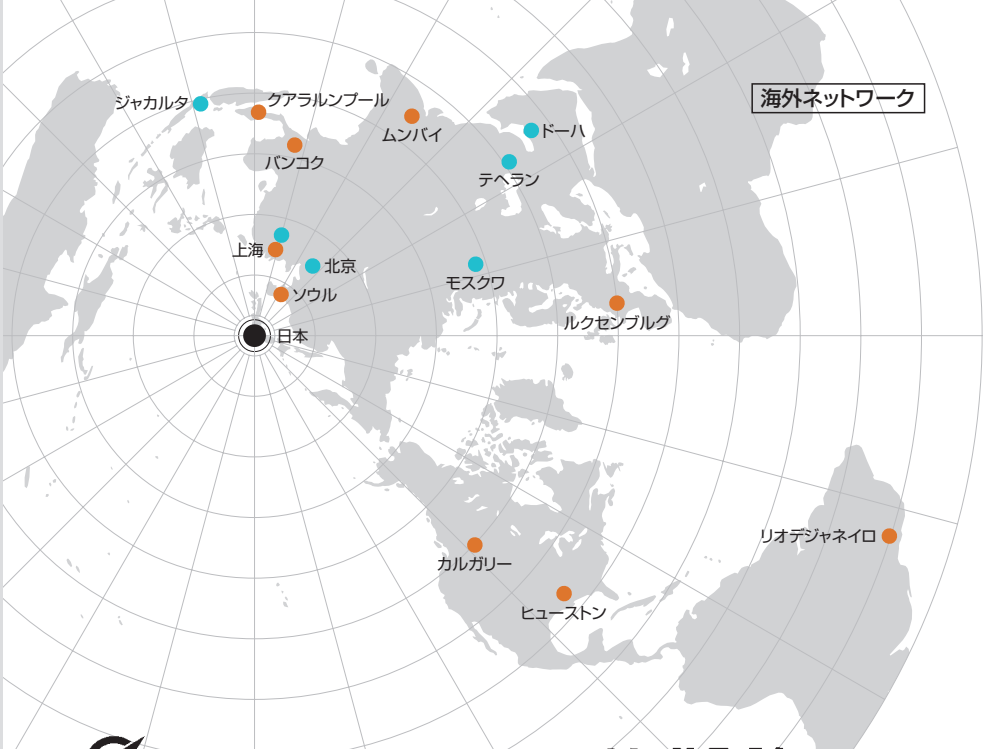
中　東　事　務　所

中東事務所があるドーハ市内

豊富な原油・天然ガス原料立地プラントの新増設ブームが続く中東全域での営業力強化を目的として、当社は2006年11月、カタールの首都ドーハに中東事務所を設立しました。ドーハは、2006年12月には45の国と地域が参加して第15回アジア競技大会が開催され、社会インフラ整備、高層ビル建設、観光リゾート計画によって、近代化に一層拍車がかかっている成長目覚しい都市です。

現在中東では、油田･ガス田開発、エネルギー、石油精製、エチレンとその誘導品、そして交通などのインフラといった幅広い分野で様々なプロジェクトが進められています。このような中、当事務所は、2006年に当社が受注したカタールシェルGTL社向けリキッドプロセシングユニットプロジェクトの支援サービスと、アラビア半島GCC諸国※での顧客密着型営業の2つを柱に活動を本格化していきます。

※ GCC（湾岸協力理事会）諸国:サウジアラビア、クウェート、カタール、バーレーン、アラブ首長国連邦、オマーン



東洋エンジニアリング株式会社(TEC)

本　社
〒275-0024　千葉県習志野市茜浜2丁目8-1
Tel: 047-451-1111　Fax: 047-454-1800
URL: http://www.toyo-eng.co.jp/

東京本社
〒100-6007　東京都千代田区霞が関3丁目2-5
Tel: 03-3592-7411　Fax: 03-3593-0749

技術研究所
〒297-0017　千葉県茂原市東郷字富士見1818
Tel: 0475-24-4551　Fax: 0475-22-1338

海外事務所

- **北　京**
  E. 7th Fl., Bldg. D, Fuhua Mansion, Chaoyangmen North Avenue No. 8, Beijing 100027, China
  Tel: 86-10-6554-4515　Fax: 86-10-6554-3212
- **上　海**
  17th Fl., Shanghai Zhongrong Plaza, No. 1088 Pudong South Road, Pudong New District, Shanghai 200122, China
  Tel: 86-21-5888-9935　Fax: 86-21-5888-8864/8874
- **ジャカルタ**
  Midplaza, 8th Fl., Jl. Jendral Sudirman Kav. 10-11, Jakarta 10220, Indonesia
  Tel: 62-21-570-6217/5154　Fax: 62-21-570-6215
- **ドーハ**
  Bldg. No.9, 802 Al Abbas Street
  P.O. Box 24131, Doha, Qatar
  Tel: 974-437-8860　Fax: 974-437-8861
- **テヘラン**
  West Side / Grand Floor, No. 4 Alvand Street, Argentine Square, Tehran, Iran
  Tel: 98-21-8866-3088/4598　Fax: 98-21-8879-4019
- **モスクワ**
  Room No. 605, World Trade Center, Krasnopresnenskaya Nab., 12, Moscow 123610, Russia
  Tel: 7-495-258-2064/1504　Fax: 7-495-258-2065

海外関連会社

- **Toyo Engineering Korea Limited**
  (ソウル)
  Toyo Bldg., 677-17, Yeoksam-1Dong, Kangnam-ku, Seoul, 135-915, Korea
  Tel: 82-2-2189-1619　Fax: 82-2-2189-1891
- **Toyo Engineering Corporation, China**
- **Toyo Engineering Corporation (China) Procurement**
  (上海)
  17th Fl., Shanghai Zhongrong Plaza, No. 1088 Pudong South Road, Pudong New District, Shanghai 200122, China
  Tel: 86-21-5888-9935　Fax: 86-21-5888-8864/8874
- **Toyo-Thai Corporation Ltd.**
  (バンコク)
  22nd Fl., Serm-Mit Tower, 159 Soi Asoke, Sukhumvit 21 Road, Bangkok 10110, Thailand
  Tel: 66-2-260-8505　Fax: 66-2-260-8525/8526
- **Toyo Engineering & Construction Sdn. Bhd.**
  (クアラルンプール)
  Suite 25.4, 25th Fl., Menara Haw Par, Jalan Sultan Ismail, 50250 Kuala Lumpur, Malaysia
  Tel: 60-3-2078-5796　Fax: 60-3-2078-5798
- **Toyo Engineering India Limited**
  (ムンバイ)
  "Toyo House", L.B.S. Marg, Kanjurmarg (West), Mumbai-400 078, India
  Tel: 91-22-2579-9001　Fax: 91-22-2579-9061/9062
- **Toyo Engineering Europe S.A.**
  (ルクセンブルグ)
  25, Route d'Esch, L-1470, Luxembourg
  Tel: 352-497511　Fax: 352-487555
- **Toyo Canada Corporation**
  (カルガリー)
  #640 Ford Tower, 633, 6th Avenue SW, Calgary, Alberta T2P 2Y5, Canada
  Tel: 1-403-237-8117/8127
- **Toyo U.S.A., Inc.**
  (ヒューストン)
  15415 Katy Freeway, Suite 600, Houston, TX 77094, U.S.A.
  Tel: 1-281-579-8900　Fax: 1-281-599-9337
- **Toyo do Brasil-Consultoria E Construcoes Industriais Ltda.**
  (リオデジャネイロ)
  Praia de Botafogo, 228-Sala 801C-Ala B, Botafogo, 22359-900, Rio de Janeiro-RJ, Brazil
  Tel: 55-21-2551-1829　Fax: 55-21-2551-2048

®を付けた標章は東洋エンジニアリング株式会社の日本における登録商標です。
©2007 Toyo Engineering Corp.